

## 1992年12月の大気大循環と世界の天候 月平均 500 hPa 天気図.

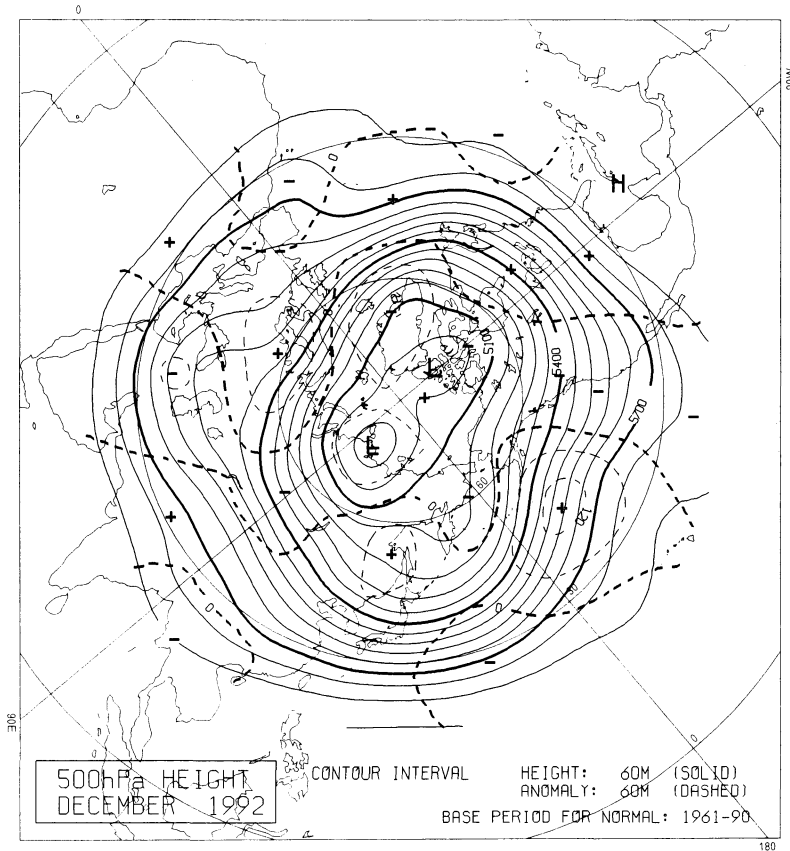


表 1 1992年12月の気候表

地点名	気温 °C	偏差 °C	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級	地点名	気温 °C	偏差 °C	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級
パリ	—	—	—	—	—	—	カサブランカ	14.2	1.3	1.3	7	6	1
ベルリン	1.2	-0.3	-0.1	58	118	4	ニオロドサヘル	25.3	2.2	1.7	0	0	—
ローマ	—	—	—	—	—	—	プレトリア	—	—	—	—	—	—
イスタンブール	5.4	-2.7	-1.7	107	93	3	バンクーバー	1.9	-2.0	-1.3	118	65	1
モスクワ	-4.4	1.6	0.5	18	39	—	ニューオーリンズ	14.6	1.8	0.9	144	107	4
オデッサ	-1.0	-2.4	-1.3	13	31	1	セントルイス	2.1	0.8	0.3	93	165	5
ニューデリー	16.7	1.0	1.0	0	0	3	サンフランシスコ	9.9	0.3	0.2	153	170	5
カルカッタ	20.5	-0.1	-0.1	0	0	4	ニューヨーク	3.3	1.0	0.5	139	156	5
ボンベイ	27.4	1.2	1.7	0	0	4	マナウス	—	—	—	—	—	—
ホンコン	19.1	—	—	62	—	5	サンパウロ	—	—	—	—	—	—
チャンチュン	-11.4	1.3	0.5	6	136	5	ロサリオ	22.8	0.4	0.4	127	125	4
ベキン	-0.3	2.1	1.2	0	0	2	ホノルル	24.8	1.6	2.7	165	184	5
シャンハイ	8.1	—	—	33	—	3	タヒチ	27.0	0.5	1.0	194	71	2
バンコク	26.7	0.7	0.6	11	104	—	ダーウィン	29.1	0.1	0.2	240	96	4
マニラ	—	—	—	—	—	—	キャンベラ	17.4	-0.9	-0.8	85	152	5

## 12月の世界の天候

12月の月平均 500 hPa 高度天気図では、極渦はグリーンランドとタイミル半島で強く、12月の北半球極渦指数は3年連続で強い負偏差となった。中緯度帯は波数4だがほぼゾーナルな流れとなり正偏差の領域が大きく広がった。波数4のトラフにあたる北アメリカ西海岸と中東方面は負偏差となり寒気が南下した。また12月下旬には北欧とアラスカの南にブロッキング高気圧が発生したが長続きしなかった。

### ①パキスタンからインド北西部にかけての高温

中東方面のトラフの前面になり暖気が入ったパキスタンでは、ラホールで月平均気温 17.5°C (年間偏差+3.4°C) など高温となった。

### ②中東の低温

昨冬は著しい低温となった中東は、エルサレムで 6.9°C (-3.6°C) を記録するなど今冬も低温となっている。トルコ東部の高地では大雪により村が孤立する被害が出た。

### ③サヘル西部の高温

マリの南部を中心に高温となった。

### ④オーストラリア南東部の多雨

8月以来、多雨傾向が続いているオーストラリア南

東部では、ミルジュラで月降水量 181 mm (平均の10.5倍) など12月も著しい多雨となり小麦収穫への大きな打撃が報じられた。

### ⑤その他

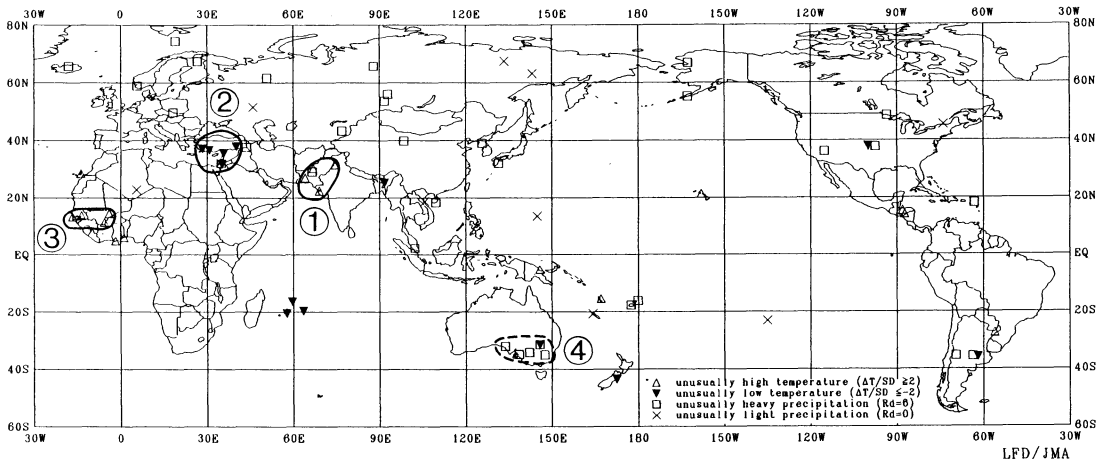
アメリカ合衆国中部から西部にかけて低温傾向となり、アラスカのブロッキングに伴い強い寒気が南下した月末にはカリフォルニア州やネバダ州で大雪の被害が出た。アメリカ合衆国北東部は月の半ばに発達した低気圧の影響で暴風雨や高潮に見舞われたものの月を通してみると高温少雨となった。

500 hPa 高度場で西谷となった日本から中国南部にかけては多雨となり、8月以来の少雨で干ばつが懸念されていた中国南部も 60~80 mm の月降水量となった。

アルゼンチンは北部を中心に多雨となり、ボリビアやブラジル南部でも大雨による被害が伝えられた。

モンスーンが始まったオーストラリア北部の降水量はダーウィンで 240 mm (96%) などほぼ平年並だった。

(気象庁長期予報課 藤川典久)



1992年12月の世界の異常天候分布図

△：高温 ▽：低温

図中の番号は、本文中の番号と対応している。

□：多雨 ×：少雨

1992年12月の気候表の説明。平均値は、1951~1980年のデータに基づくもの。降水階級は五分位値で、0は最小値より小さい場合、6は最大値より大きい場合。500 hPa 高度場の平均値は1961~1990年の30年平均値。